



4月の園だより No.2



大切なはじめの一步

～子どもをまんやかに～

ご入園、ご進級おめでとうございます。

例年であれば線路沿いの桜並木の桜が咲き始める頃ですが、気温が上がらず、雨もよく降り、春の訪れのスピードは緩やかなようです。

新年度は新入園児 8 名を迎え、進級児 35 名とともに 43 名でスタートします。これから始まる園生活が、お子さんにとっても保護者の皆さまにとっても安心できる楽しい日々になるように取り組んでいきたいと思ひます。

当園では『感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子』を保育理念としています。赤ちゃんの頃からしっかり可愛がられ、声をかけてもらい、普通の愛情で満足することが土台となります。大人から与えられた安心感や信頼感が、自分の存在に対する自信となっていきます。これが「やる気」の原点になったり、友だちを求める気持ちに繋がります。目には見えにくい力ですが子どもたちの目の輝き、つぶやきや行動の中に現れてきます。それを見逃さずお子さんに声をかけたり、一緒に子どもたちの興味のあることに取り組んでみてください。

子どもたちが成長していく中では、楽しい経験ばかりではなく、時に痛い、悲しい、悔しいというマイナスの経験を乗り越えていき、人と関わる中で我慢したり、自分の気持ちに折り合いをつけることを学び、自分以外の人も認めることで感謝と思いやりの心が育っていくのだと思ひます。

3月16日(土)に卒園式を終え、保育園から巣立って行った年長児は、卒園式の中で、保護者の方にメッセージを伝えていました。「〇〇してくれてありがとう」「〇〇と一緒に行って楽しかったよ」など感謝の気持ちや自分の思いを少し緊張しながら言葉にして伝えることができました。地域とのつながりが深く、自然豊かな小屋浦で、様々な人やものに関わりながら心豊かに過ごしていく中で、感謝の気持ちが育ち、異年齢と一緒に過ごすことで小さいクラスの子どもたちの憧れの存在となる経験をしたことで思いやりの心も育まれてきました。姿勢よく保育証書を受け取ったり、話をしっかり聞く姿勢が見られ、年長ならではの成長を感じることができました。

入園してから卒園するまでの乳幼児期は、子どもたちの未来に大きく影響する大事な時期であると言われてひます。その時期に、子どもたちが「やってみたい」ことを思う存分できる時間や空間、環境を保障していくことで、子どもたちは主体性を伸ばし、自分で考え自主的な行動がとれる子に育っていくのだと思ひます。

新しい環境の中で、見通しがもてず不安を感じたり、思い通りにいかないことで気持ちがイライラすることもあると思ひますが、園生活に慣れ、集団生活の中で自分の好きなあそびを見つけ、意欲的に遊ぶことで落ち着いてきます。

また、意欲的に園生活を楽しむためには、まず生活リズムを整えていくことが大切です。基本的な生活習慣(寝ること、食べること、衣服を着脱すること、清潔にすること)は、全ての自立の習得に繋がってひきますので、ご家庭でもできるだけお子さんの様子に合わせて声かけや援助をしていただきますようにご協力をお願いします。

4月、子どもたちの「はじめの一步」を見守りながら、この時期にしか出会うとこのできないものを子どもたちと一緒にわくわくドキドキしながら楽しみたいと思ひます。

一年間よろしくお祈ひします。

園長